

たかはし

カトリック大宮教会
〒330-0803
さいたま市大宮区
高鼻町2-350
TEL 048(641)2935
FAX 048(641)2724

クリスマスによせて

大宮教会の皆さんへ

ウエイン・バートン（カプチン会）

降誕祭にはクリスマスツリーの下にプレゼントが置かれます。でも、時として私たちは形ある物ではなく、神様から目に見えない恵みのプレゼントを頂くことがあります。今年、私たち家族は特別な恵みを頂きました。そのことをこのメッセージを通して、皆さんと分かち合いたいと思います。

三ヶ月前に姉と弟から、母が病気になるたと緊急の電話がありました。早くアメリカへ帰ってこないかと親の死に目に会えない、取り返しがつかないことになるというのです。早速帰国すると、九十歳の母の病状は深刻な上に、右足指に糖尿病による壊疽があり、医師の判断によると快復は非常に困難とのことでした。それで母の希望を受けて退院させ、最後の日々をアパートで過ごしてもらうことに決めました。

その日から私は毎日、母のための買い物や、食事や入浴の介助、包帯交換や鎮痛剤を飲ませることなど身の周りの世話をしました。母とたくさん話をし、ミサと祈りを捧げ、一緒にいられることを神様に感謝しました。

私がアメリカへ帰国する以前、食事を摂らなかつたり薬を飲み忘れたり母はどんどん衰弱し、精神的な不安や心配が母の心を蝕んでいました。



もくじ

クリスマスによせて……………	1
新しい「ローマ・ミサ典礼書」に基づく変更箇所……………	2～3
私の心に残っているクリスマス……………	4～5
第5回バス巡礼……………	6
クリスマスチャン・アート・スペース……………	7
バザー報告 教会日誌……………	8

しかし息子である私が傍にいる安心感からか、不思議なことに母は少しずつ体力を取り戻していききました。そして毎日通院する力を得てから、新しい治療で右足の全ての指を切断したところ、傷口が奇跡的に治り始めました。その後、独りで住むのは無理だと判断した私たちが母を説得し、特別老人ホームに入所させました。

まだ予断は許さないものの、今は痛みもなく、ホームでおいしい食事を食べ、看護師のケアを受けながら元気で暮らすことができるようになりました。姉と弟の言うことを聞かなかつた頑固な母が長男である自分の話を受け入れたことに驚いた私は、改めて家族における自分の大切な役割を認識し、今までは自分がその役割を十分に

〈前頁より続く〉

果たしてこなかったことを反省しました。

実は四年前に父が亡くなり、その後、姉の夫、弟の妻が相次いで癌で亡くなっていました。正直なところ、私の家族はガタガタでした。悲しみにうちひしがれている姉と弟にとって、母の看病は重荷だったのです。二人はお互いの無力さ非力さを痛感し、神様に信頼することを忘れてしまっていました。元々姉は精神的に強い人ですが、弟は妻の死の悲しみに打ちひしがれていた状態でした。

兄弟姉妹が各々の力を絞り出して母のケアをしていくうちに、姉と弟は不思議な癒しの恵みを神様から頂いたのです。その結果二人とも大切な神様に対する信頼と信仰を新たにすることができました。

こういうことで私は今回アメリカへの帰省で、家族が神様の癒しと慰めを頂くという大きな体験をしました。そのような恵みを神様から頂いた私どもは、一足早いクリスマスの『プレゼント—恵み』を分かち合うことができました。私は神様にも皆さんにも感謝しています。

主のご降誕おめでとうございました。

天使が歌ったように、「いと高きところに、神に栄光、地には平和、み心にかなう人にあれ」。

皆さん一人ひとりにイエス様の祝福と平和と心の喜びがありますように。

ウエイン・バート神父

巻頭言をいただいたウエイン神父様には二〇〇五年から六年間、大宮教会担当司祭としてお世話になりました。

現在は、カプチン会日本地区長、那覇教区普天間・小禄・与那原小教区主任司祭を務められており、本州には年数回黙想会指導等で来訪されております。

お忙しい中、ご寄稿下さり、ありがとうございます。



(P)

主の降誕のお慶びを申し上げます。巷ではジングルベルなどの音楽が流れ、クリスマス商戦が華やかですが、わたくしたちのクリスマスとはかけ離れたものです。

祭壇前におかれた4本のロウソクに毎週一本ずつ増やして火を灯し、主の来臨を待ち望んだ旧約時代の主の民に思いをはせながら、救い主の降誕を待ち望んできました。私たちの準備するクリスマスは、クリストのマス（ミサ）を行い典礼を通じて主の降誕を待ち望み、主の降誕の秘儀を黙想することです。



待降節第一主日より新しいミサ典礼書の総則に基づき幾つかの変更が生じました。

考え方としては

「正式な手続きを踏んで承認された地方教会による適応を加えながら、共通の規則に基づいてミサをささげることによって、世界各地のローマ典礼様式の教会との一致を意識しつつ、地方教会独自の文化や伝統を生かす…」というこ

とです。

この考え方に基づき

日本の適用として、立つことと座ることが基本的な姿勢となっています。内容は司祭助祭と典礼奉仕者に関することがほとんどで、会衆に関する部分は限られています。

信者が立っているのは

司祭が祭壇に向かうときから集会祈願の終わりまで、アレルヤ唱から福音が告げられている間、信仰宣言と共同祈願の間、そして、奉納祈願前の祈りへの招きからミサの終わりまで。従って今後、栄光の賛歌の時の着席は行わないことにしましょう。

日本の適応として、パンとぶどう酒の聖別のとき、会衆はひざまずくのではなく立ったまま手を合わせ、聖別の祈りの後、手を合わせて深く礼をします。

ミサが始まる前とミサの後の沈黙が、教会堂内はもちろん、教会堂に隣接する場所でも守られるよう配慮します。

新しい「ローマ・ミサ典礼書の総則」に



基づく変更箇所

カトリック大宮教会担当司祭

鈴木三蛙

内陣については

司祭席と侍者席を明確に区別すること、祭壇には主日は4本または6本のロウソクを置くこと、司教ミサでは7本とすること、奉納のパンと葡萄酒を祭壇に置くのは司祭であり奉仕者は司祭に手渡すこと、聖体奉仕者は祭壇から直にチボリウムを取り上げず司祭の手をどうして受け取るべきこと、聖体奉仕者の聖体拝領は司祭から受けるべきこと、などが決められております。

詳しくは新しいローマ・ミサ典礼書に基づく変更箇所についてプリントしましたのでお読みください。

皆様の上に幼子イエスの祝福が豊かに注がれますように！

☆新しい「ローマ・ミサ典礼書の総則」に基づく変更箇所のプリント（A4・9ページ）は聖堂の後ろに置いてあります。ご自由にお持ち帰りください。

答唱詩編とアレルヤ唱の詩編

または唱句は先唱者が朗読台から唱え、会衆は「答唱」または「アレルヤ」の部分之歌って参加します。

回心の祈りと祈願への

招きの後には各人は内面に心に向け、朗読または説教の後には聞いたことを短く黙想します。聖体拝領後には心の中で神を賛美して祈ります。

パンと葡萄酒の聖別するとき

手を合わせます。そして聖別の祈りの後、司祭とともに手を合わせて深く礼をします。

福音のとき

自分の額、口、胸に親指で十字架のしるしをすることも明記されました。

研修会では

奉献文の最後の衆唱

「すべての誉れと栄光は世々に至るまで」は司祭の唱える言葉です。会衆は唱えないようにとの注意喚起もありました。

なお旅行者のためのミサなどを除き、日本の適用は外国籍の方の多いミサでも守られるようにとの事です。



クリスマスへの思い出

「心に残っているクリスマス」を思い出そうとしたが、特別のクリスマスはない。そこで何回かのクリスマスを書くことにした。

一九七三年のクリスマス、青年会で建て替え前の幼稚園舎に集まった。泊まった人が十七人。徹夜で話し、ワレ神父様が夜中三時まで、猪俣神父様が朝五時まで一緒に青年と話をしてくれた。

何人かの人は今でも付き合いが続いている。ワレ神父様、猪俣神父様には心から育てていただいたとお礼を言いたい。

一九七五年、七里で青年会の黙

想会があった。指導は現大宮教会の鈴木神父様。黙想は主に座禅であった。神は論理的に追究しても完全に理解できるものではなく、

雑念を心から追い払い、ただ自分を神に向け体験しようとした。参会者の内、二人が修連女になった。

一九九七年、転勤で東京の田無教会のミサにあずかった。市川神父様が説教で貧しさについて話された。その中で、教皇ヨハネパウロ二世が、豊かな国が貧しい国に貸している膨大な借金を放棄するよう訴えている話があった。その時に比べ、国の貧富の格差は縮まるどころかかえって拡大している。何かできないかと考えてしまう。二〇〇三年、富山教会でクリスマスを迎えた。富山教会は古い建物で聖堂にはスリッパを履いて上がった。説教は「貧しい人は幸い。差別をしないように」という話であった。差別は通常強者がするもの。するよりされる方が良いと思っ

た。以上昔のことをよく覚えているなど思われたかも知れませんが、日記から拾ったものでした。

奄美で迎えたクリスマス

長い間、奄美では迫害が続いておりました。アメリカと日本が戦った大東亜戦争は、アメリカの勝利で終わり、日本の敗戦をラジオのニュースで聞いたのは、昭和二十年八月十五日でした。大変なショックを受け、悔しく残念な思いだったことは今でも忘れられません。

島民は旧教会を会場として、毎日集って話し合っていました。

そこへ、なんとグアム島から二人の神父様が来島して下さり、私たち島民をびつくりさせたのです。日本語は全然通じませんが、幸いにも教会の隣に住む、

英語

の達人で、通訳を引き受けて下さり、神父様たちと私たち信徒をつなぐ大きな力となって下さいました。ごミサはラテン語で旧信者のミサごたえ(侍者)が加わり、まもなく迎えたクリスマスは、旧七教会が皆、瀬留教会に集まり、朝から深夜ミサまで賑わいました。長い間続いた迫害と戦争で苦し

んできた中での明るい再スタートを切れたことは、とても幸運でした。現在までにこの奄美から三名の司教様、そして多くの聖職者が出られ、国内外で働かれるまでにだれが育てて下さったのでしょうか？あの頃は、自分たちでは二人のアメリカ人司祭に連絡を取る手段はなかったのです。この不思議な計らいはすべて神様のみ業であり、心に残る本当の意味でのクリスマスへの訪れだったと思います。

デオ グラシアス

家族と過ごしたクリスマス

母は、私が小学校まで新潟で教師をしていましたので、私にとって二期の終業日でもあるクリスマスは特別嬉しい日でした。毎年、母が買ってきてくれたアイスクリームケーキを囲んで家族皆などお祝いしたホワイト・クリスマスでした。

私は、大宮教会で洗礼を受けたのち、教会で結婚式を挙げ沢山のお恵みを頂きました。結婚式の二



私の心に残るクリスマス



(5)

ヶ月後のクリスマスには夫とミサにあずかり、ミサ後、ご馳走になったホロツとくずれる美味しいクッキーの味は忘れられません。

教会からは遠のいていましたが、神様に祝福されて育った我が家の四姉妹にも、クリスマスと言えはサンタクロースにまつわる数々のエピソードがあります。

ラップランドのサンタさんへ手紙を出したこと、大人に内緒でサンタさんに電話をかけて自動音声の声にがっかりしたこと等、又、毎年サンタさんの為にお弁当やお菓子を用意して待っていました。ある年、祖父が達筆でお礼の手紙を書き残してしまったことからサンタさんの正体が発覚してしまっただけでなく、中でも私にとっても、一番の思い出は、紙芝居

です。娘達が幼稚園の年少でまだ字も書けない頃、自分達で考えたサンタさんの話を紙芝居に描いて演じてくれたのです。「絵」と「語り」が不思議なことになったり合って驚いたり感心したり。

忙しくも賑やかな子育て・介護の時期を経て、改めてその宝物のような年月を想うと、神様が私にお恵みくださった豊かな愛に感謝するばかりです。今年のクリスマスも、いつか家族と共に教会で迎えられることを願ひ祈りつつ、素敵な想い出が心に残りますように：

子どもの頃のクリスマス

平和が私たちの地球を訪れるのはいつになるのでしょうか？

シリアからの難民の移動にはいつも心が痛みます。日本の子ども達や豊かな国々の子ども達は、どう考えているのでしょうか。クリスマスにはケーキを食べ、プレゼント交換していますが、辛い方がたのこことを知る時がきつとやってくる。プレゼントの由来は、誕生

なされたイエス様に羊飼いがプレゼントを差し上げたことから始まったそうです。

昔のクリスマスミサは真夜中十二時から始まりました。子どもの頃は夜中に家族揃って雪の降っている道を歩いて教会に行くということが興奮の材料になっていました。教会に着くと大きなダルマストロブの燃える音だけが響き、おしゃべりをしようとする口に指をあてられ、でも喜びに興奮しています。ミサごたえの人が祭壇のろうそくに火をつけ、マリア院（聖ゲオルギオのフランシスコ修道院）のシスター達が十二、十三人裾までの修道服をゆらしながら席に着きます。「♪しずけき真夜中」の聖歌が流れ司祭入堂です。胸がいっぱいで声がでてこないのです。

終戦後、私共一家は、小樽から富良野支店に転勤を命じられました。父は銀行勤務でした。母が永く重い病気のため転勤を断り続けていましたが、母が亡くなり、後添えの母が来てくれたのと戦後食料が手に入らなくなり食べ盛りの子どものために農村へ転勤させられたと聞いています。小樽は文化

的な生活や歴史もありビル街もありましたが、富良野は雪が降ると一面雪野原で吹雪くと方向が分からなくなりやす。小樽のように坂がなくスキーで遊ぶこともできません。教会もなくミサに与えることもできません。悲しくて孤独でした。クリスマスが近くなり旭川の教会に行こうと父が決めていました時、良い知らせを受け取りました。富良野から馬車で一時間位の麓郷という所にある戦災孤児を育成する「国の御寮」という施設でクリスマスミサに与れるということです。喜んで父と馬車に乗せてもらい、一時間余りの道程を練炭炬燵で温まりながら向かいました。

「国の御寮」には十五人位のことでもと中学生位の少年が優しい態度で小さな子どもの面倒をみていました。父からここにいることもたちは戦争で両親が亡くなり、ここで育てられている事を聞きました。自己中心的で自分の不幸せなことばかり考えていた時、それは神からのメッセージだったと思います。

第5回バス巡礼10・11 コルダの会主催

- ①遺物見学(川越)
 - ②カトリック入間宮寺教会
(埼玉県最古の教会)
- ☆ミサ司式・ルイ神父
(聖ペトロ・パウロ労働宣教会)



写真2



写真1

当日は秋
雨も上がり
曇天のなか
での巡礼だっ
た。親睦を
図りながら
お互いの信仰について分かち合え
る時間を共有できた。

川越 には天草の切
支丹遺物・紙ふみ絵(写真3)、
まりあ仏(写真4)、供養札(写
真5)他、太政官の高札など数多
くの貴重な遺物を拝観した。

入間宮寺教会は一八八六年(明
治一九)、八王子の生糸業にかか
わっていた川寫清蔵ほか九名の受
洗に始まる。その後信徒が増え、
一九一一年(明治四四)聖堂が完
成。カトリックの聖堂では埼玉県
内で最初の建物であり、今も当時
の「和」の雰囲気そのまま残し
ている。

メーラン神父がパリから取り寄
せたといわれる、聖堂の両扉のス
テンドグラス(写真1と2)は、
ひととき目をひく。ルイ神父様の
司式によるミサでは、ご聖体を全
員配り終えられてのち、いっせいに
拝領したことに、大きな喜びと
感動があった。(写真6)

当日は秋
雨も上がり
曇天のなか
での巡礼だっ
た。親睦を
図りながら
お互いの信仰について分かち合え
る時間を共有できた。

川越 には天草の切
支丹遺物・紙ふみ絵(写真3)、
まりあ仏(写真4)、供養札(写
真5)他、太政官の高札など数多
くの貴重な遺物を拝観した。

入間宮寺教会は一八八六年(明
治一九)、八王子の生糸業にかか
わっていた川寫清蔵ほか九名の受
洗に始まる。その後信徒が増え、
一九一一年(明治四四)聖堂が完
成。カトリックの聖堂では埼玉県
内で最初の建物であり、今も当時
の「和」の雰囲気そのまま残し
ている。

メーラン神父がパリから取り寄
せたといわれる、聖堂の両扉のス
テンドグラス(写真1と2)は、
ひととき目をひく。ルイ神父様の
司式によるミサでは、ご聖体を全
員配り終えられてのち、いっせいに
拝領したことに、大きな喜びと
感動があった。(写真6)



写真3



写真5

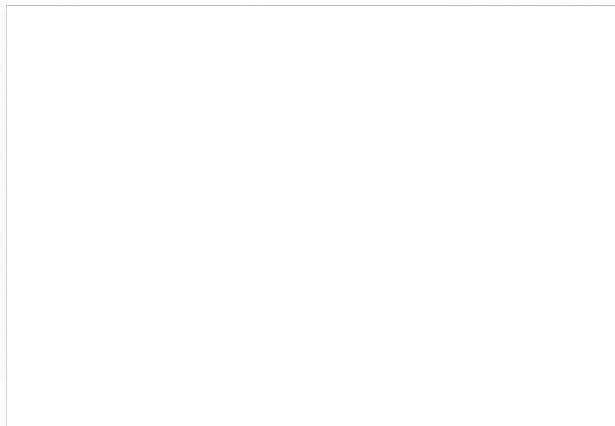


写真4

小雨模様の天気とは裏腹に、バ
スの中は楽しいおしゃべりに花が
咲き、心躍るひと時でした。訪問
宅で拝見した、隠れ
切支丹の遺物に遠い日の彼らの信
仰の証を見て、感動するとともに、
身の引き締まる思いがしました。
また、氏の心温まるおもてなしに
本当にうれしくなりました。

巡礼に参加して

その後訪れた「宮寺教会」での
ミサは心に残るものとなりました。
百年前の宣教の歴史を感じる教会
の建物や懐かしい畳を敷いた聖堂。
神様の御手にゆだねられた中で与
かったミサのルイ神父様のお説教
は目からうろこが落ちる思いでし
た。皆で向き合う形で同時に頂い
たキリストの体。本当に皆が一つ
の心でイエス様を分かち合えた気
がして思わず涙が出ました。ご一
緒したみなさんとも親睦が深まり、
参加できてよかったです。



(7)

クリスマスチャン・アート・スペース 展覧会

クリスマスチャン・アート・スペースが月二回の活動をスタートしてから二年になります。

子どもから大人まで、多様な人々が集い、お祈りし、その日のテーマ(「光」「喜び」「キリストに従う」など)を聖書のみ言葉とともに味わい、創作活動を行っていきます。絵画を中心に、焼き物、布へのペインティングなど、表現の方法は無限です。

このたび、十一月一日から二十九日まで、教会二階ホールにて第一回の展覧会を実施させていただきました。

教会の多くの方がたがご覧くださったこと、温かい感想を寄せてくださったことに感謝いたします。また、展示の準備をお手伝いしてくださった神学生のロニーさんにもお礼申し上げます。

見逃された方がたのために、内容を少しご紹介いたします。

それぞれの作品には、テーマとなったみ言葉が添えられました。



永遠の命

はつきり言っておく。一粒の麦は地に落ちて死ななければ一粒のままである。だが、死ねば、多くの実を結ぶ。
ヨハネ 12-24



喜び

主において常に喜びなさい。重ねていきます。喜びなさい。フィリピの信徒への手紙 4-4



喜び

ところで、今あなたがたは悲しんでいる。しかし、わたしは再びあなたがたと会い、あなたがたは心から喜びことになる。その喜びをあなたがたから奪い去るものはいない。
ヨハネ 16-22



キリストに従う

水のなかを通るときも、わたしはあなたと共にいる。大河の中を通っても、あなたは押し流されなない。火の中を歩いても焼かれず、炎はあなたに燃えつかない。

イザヤ 43-2



喜び

命ある限り、わたしは主に向かって歌い、長らえる限り、私の神にほめ歌をうたおう。どうかわたしの歌がみ心にかなうように。わたしは主によって喜び歌う。
詩編 104-33-34

クリスマスチャン・アート・スペースの創作活動は、聖書のみ言葉が基になっています。そこには出来栄の優劣はなく、ただ、神様と、また自分と向き合う、ゆつたりとした時間と空間があります。

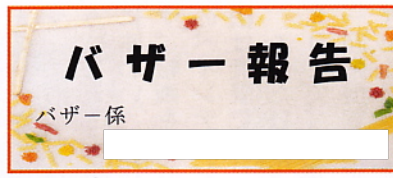
自分も参加してみたい!と思われた方は、第二・第四日曜日の十二時、二階の「青年の部屋」にお立ち寄りください。

(8)

去る10月25日(日)、幼稚園と同日開催のバザーが行なわれました。

今回は従来とは違うフリーマーケット方式で、個人・団体の14ブースの参加がありました。

目的は、会議室用長テーブルの購入です。



当日は、風が強く、砂ぼこりが舞い上がる中、キャンディ付きのチラシを配布した効果なのか、幼稚園の保護者の方がたが足を運んでくださったことはよかったです。

参加者からの声として、人手不足の為、店番の交替が出来ず、全体の様子を見ることがむずかしかったとか、一階のフードコーナーではゆったり会話できず、食べるスペースが足りなかった等の今後の課題もありました。

数日前からの準備、後片付け等を通して、皆さまからいろいろ学ばせて頂き、共に参加できたことに感謝いたします。

収益金は二十一万二千九十四円になりました。
ご協力ありがとうございました。

教 会 日 誌

15 聖母被昇天の祝日

たかはな138号発行

13 さいたま教区ボウリング大会参加

13 子ども会二期始まる

信徒委員会

26 シンポジウム平和のための宗教者の使命

27 感謝の集い(敬老の日)

初聖体の勉強会開始

信徒委員会

バス巡礼:コルダの会主催

25 バザー(幼稚園同日開催)

諸聖人のミサ

クリスチャン・アート・スペース

展覧会開始

8 死者の日追悼ミサ

信徒委員会

15 七五三の祝福(主日ミサ中)

女子パウロ会による販売会

20 司牧者会議

23 子ども会遠足:(神学院ザビエル祭)

29 待降節第一主日

新形式ミサ(P2-3を参照)実施

信徒総会

6 クリスマスマミニセール

8 無原罪の聖マリアの祝日

13 いくくしみの特別聖年開幕ミサ

13 クリスマスパークティー(国際交流部による)

19 チャリティコンサート

子ども会クリスマス会宿(一泊)

20 信徒委員会

24 子ども会聖劇18時

クリスマスミサ19時

25 クリスマスマミサ10時